



がっこう 学校だより

がっこう
1月号



**Challenge
Dream
Interaction**

れいわ ねん がつ か
令和2年1月7日
よこはまし りつかみい だ しょうがっこう
横浜市立上飯田小学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamiida/>



ねん あたら とし はじ 2020年 新しい年の始まり

こうちょう よこやまよしあき
校長 横山美明

あけましておめでとうございます。新しい年の始まり、子ども達はご家庭でお正月をゆっくりと過ごすことができたでしょうか。お正月の食べ物と言えばおせち料理ですが、最近のおせち料理は、和食に限らず、洋食や中華のメニューも出ていて、バラエティに富み、味も見た目も楽しめるようになってきているようです。そもそもおせち料理の始まりは古く、その起源は弥生時代とも言われています。当時の人々が季節ごとに神様に大漁や豊作を願ったり、自然の恵みや収穫に感謝したりして、神様に供えものをしていたのが始まりだそうです。それが、奈良から平安時代になると、中国からはいつてきた暦に合わせて、不老長寿を神様に祈願し、宴を開く宮中行事が行われるようになりました。これを「節会」と言い、この時に供されたお料理がおせち料理の語源になったと言われています。さらに、江戸時代になると、宮中の行事や文化が庶民の間にも入ってくるようになりました。おせち料理も1年の節目であるお正月に食べるものとして庶民の年間行事となり、全国に広まっていったそうです。ご存じのように、おせち料理には、供え物として一つ一つの料理に願いの意味があります。例えば、海老は丸まっているので腰が曲がるまで長生き、数の子は卵が多いことから子孫繁栄、黒豆は黒くなるほど「まめ」に働く、昆布は「よろこぶ」、鯛は「めでたい」などの言葉につながるというように、どの料理にも家族の健康や繁栄といった願いが込められています。私も子どもの頃、両親や祖父母からお正月にこういった話をよく聞かされたものです。

さて、今年オリンピックイヤーであると同時に、小学校では4月から新学習指導要領が全面実施されます。外国語が教科化されたり、プログラミング教育が入ってきたりと様々な変化があります。本校でもそれに向けて、カリキュラムの見直しに取り組んでいるところです。また、授業時数をしっかりと確保するために学校行事等についても残りの3か月で精選や見直しをしていきます。ただし、ここで大切なのは、ただ時数確保のための行事や活動のカットではなく、おせち料理と同様に、当時の先生方や保護者、地域の方々が、子ども達にこういうことを学んでほしい、こういう力を身につけてほしいというそれぞれの行事や活動に込めた思いや願いをしっかりと受け止め、それを今の上飯田小学校の子ども達の実態や社会情勢等に照らし合わせながら再編成していきたいと考えています。今年も子ども達の健やかな成長のため、ご理解・ご協力よろしくお願いいたします。